

人生を楽しむ

二見 志郎

Shiro Futami



1. 趣味を楽しむ

私が 2009 年 3 月に仕事を 65 歳で完全にやめた後、趣味のスキー、山登りやサイクリングへの血が再び騒ぎ出した。

1999 年（現役時代）に初めて行ったカナダのウィスラー・ブラッコムスキー場を皮切りに、以前から、海外のスキー場にはよく行っていたが、仕事をやめた後は長期の旅を楽しんでいる。過去 18 年間に 30 数回、スイス、フランス、イタリア、オーストリア、スペイン、ニュージーランド、北米コロラド、カナダなどの国々をめぐり、現在も海外スキーの旅は続いている。海外スキーの醍醐味は、何と言っても美しい景色と規模の大きさではないかと思う。リフトやロープウェイなどで上り、海拔 4,000m から望む景色は感動的である。



写真1 マッターホルンを背景に

2009 年、長年考えていた山小屋での長期滞在をやろうと 7 月に北アルプスの高天原山荘（海拔 2,200m）に約 1 ヶ月間滞在した。朝夕は宿泊客の食事と掃除の手伝いを行い、宿泊客が出発してから夕食の準備が始まるまでは山小屋の周辺を歩き回り夏山の自然を満喫した。この間、水晶岳、赤牛岳、鷲羽岳、黒部五郎岳など周辺の山々を楽しんだ。

この山小屋の経営者である五十嶋博文さんとは学生時代に知り合った。五十嶋さんは北アルプスの山小屋を 4 つ（太郎平小屋、薬師沢小屋、スゴ乗越小屋、高天原山荘）持たれており、また冬は極楽坂スキー場にスキーロッジを持つ方で、若い時には子供達を連れて北アルプスの山小屋へ登ったり、毎年正月には極楽坂スキー場にスキーに行くようになり、交流は今も続いている。

私が高天原山荘に滞在している間に、NHKの取材で登山家の田部井淳子さんや内多アナウンサー達が取材のため宿泊されたこともあった。

2010年7月には、学生時代に台風のため途中でやめた四国一周サイクリングにリベンジで行き直した。このサイクリングは、徳島まで鉄道で自転車を運び12日間かけて四国を一周するというものだった。翌年(2011年)7月には、九州小倉まで新幹線で自転車を運び、そこからサイクリングで関門国道トンネルを下関に渡り、山陰海岸を、萩市、石見銀山、出雲大社、足立美術館、鳥取砂丘など経由して、城崎温泉まで8日間旅した。同じ頃、しまなみ海道やびわ湖一周のサイクリングにもそれぞれ3～5回行っていたことも思い出される。

2012年7月には、山小屋の五十嶋さんから要請で再び北アルプスの高天原山荘に約1ヶ月滞在し、夏の山小屋生活を満喫した。

最近では、体力を保持するために近所のスポーツジムにも通ってエアロビクスやヨガを楽しんでいる。スポーツジムのトレーニングは、初心者、上級者を問わず誰もが気軽に楽しめストレス発散になると共に、仲間の輪を地域へ広げることにも繋がるため続けていきたいと思っている。



写真2 高天原山荘にて登山家田部井淳子さんと一緒に



写真3 四国一周のサイクリング



写真4 近所のスポーツジムにて

2. ボランティア活動に挑戦

1) 「滋賀県レイカディア大学」に入学

しかし、遊んでばかりでは何か物足りず、世の中のためになることはないかといういろいろ考え、2012年に友人からの紹介で知った「滋賀県レイカディア大学」に入学することにした。

「滋賀県レイカディア大学」は、高齢者の社会参加意欲の高まりに応え、高齢者が新しい知識、教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるよう支援している場ということで、その志があれば、滋賀県在住の60歳以上の人は誰でも入ることができるシニア向けの2年制の学校である。草津校と米原校があり、私は2012年10月に米原校に入学し、園芸学科(35期生)で学ぶことにした。他にも、陶芸学科、北近江文化学科、健康づくり学科などがある中でなぜ園芸学科を選んだかというと、自然が大好きだったからである。ここでは、樹木の剪定、果樹や野菜の栽培、盆栽の製作などを2年間学び、また一般教養で人生の過ごし方やボランティアに関することも学んだ。

1年生の時に既存のボランティアグループに入り、ボランティアとは、自分の意志で周囲と協力しながら無償で行う活動であることを学んだ。また、実際にやってみて人々のためになっていることがわかり、ボランティアの楽しさを知った。2年生では今までに学んだことを活かし、課題学習として自分たちでボランティアグループを立ち上げることになり取り組みたいテーマや問題など色々と探すことになった。35期園芸学科の2年生は26名で、8名が盆栽グループ(八起き会)に、7名が果樹グループ(セブンファーマーズ)に、そして私が11名で3つ目の庭園整備グループ(伊庭愛笑会)を作った。

2) ボランティアグループ「伊庭愛笑会」の立ち上げ

元々私は、近江八幡市内にある古民家の再生に寄与できる庭園整備を課題学習のテーマとして取り組みたいと考え、2013年2月頃から近江八幡市役所で紹介された旧吉田邸、西勝酒造跡、前田邸等を調査していたが、庭園整備の条件に見合う所は見つからなかった。

2013年8月10日(土)付けの新聞で、「旧伊庭家住宅」が市民団体オレガノによって年間を通じて公開されるようになったことを知り、同年8月17日(土)に訪問してみることにした。

この旧伊庭家住宅は、建築家のウィリアム・メリル・ヴォーリズが、伊庭貞剛(住友財閥の中興の祖の一人で、住友家第二代総領事として着任し、別子銅山の公害問題の解決などに取り組んだ)の依頼で建てた建物で、息子の伊庭慎吉のために建てた住まいである。慎吉は絵画の勉強のためにフランスに留学、帰国後近江八幡で八幡商業高校の美術の教師として勤務し、結婚後は、地元の沙沙貴神社の神主や村長をした人物である。

また、ウィリアム・メリル・ヴォーリズは、1905年に米国から来日した米国人(後に日本に帰化)で、最初は高校の英語の教師として赴任したが、学校で宣教活動をしたとして退職になったため、元々やりたかった建築家となり、後日有名になった人物である。近江八幡のみならず日本の各地に今でも有名な建物を残し、大阪心斎橋の大丸百貨店などが有名である。

訪問した時に、この建物の管理をされているオレガノ(大野きよ美代表)のメンバーのお一人、城念久子副代表にお会いすることが



写真5 旧伊庭家住宅 外観

できた。

話によると、建物は、オレガノのメンバー（約 20 名）で整備し管理しているが、庭園の整備まで手が回らず地元の老人クラブに雑草の草取り等をお願いしているのが実情だということだった。2013 年 7 月に公開準備のためなんとか捻出した金額でシルバー人材センターに雑草取りを依頼したが、これが精一杯のことだった。今まで市の管理だったが、これからは自分たちで対応しなければいけなくなり、庭園の樹木の剪定等をレイカディア大学でやっていただけるなら大変嬉しいとのことだった。剪定作業の他、地域交流拠点として活用される様々な行事の下支えとして参加も可能か尋ねたところ「ぜひ、協力いただきたい。色々なイベントにアイデアと活動で協力して下さると嬉しい。現在 20 名で週 6 日公開しているが 1 日 2 名の当番では少々ハード。」とのことだった。

また、その他の条件を伺ったところ次のような答えが返ってきた。

- ① 近江八幡市の市指定文化財であることを考慮する必要がある。但し、旧吉田邸のようなイベント開催や、物品の販売などの制約はない。
- ② 市文化観光課からは「維持管理のための経費の支出は、積極的にする」と言われている。
- ③ 隣が保育園であるので安全面などの考慮が必要である。
- ④ サクラやマツの害虫駆除などは、安全面からも市役所に要請すれば対処してもらえる。

この他「現在困っていること」として次のように答えられた。

- ・ 庭園の広さや樹木の種類の多さに対して、その庭園を管理する者がいない。
- ・ 庭園整備の費用に苦慮している。
- ・ イベントなどの協力者を募っている。

所在地が安土町であり近江八幡市と合併して間もないこともあり、旧近江八幡市からの協力参加は合併後の安土町と近江八幡市にとってもよい関係を築くことになる。近江八幡市在住の 35 期園芸学科のメンバーに相談したところ皆賛成してくれたので、庭園の樹木や草花の剪定などの整備を他のレイカディア大学生のメンバーにも呼びかけ行うこととし「旧伊庭家住宅の庭園整備」を課題学習のテーマに決めて取り組むことにした。

メンバーは、私が代表を務め、女性 2 名を含む総員 11 名に加え、樹木医の北村正隆先生に指導教官を担当していただくことになった。35 伊庭愛笑会（以下、「伊庭愛笑会」という）は、35 期生が旧伊庭家住宅を愛し、笑って楽しく庭園整備する会の意味で命名した。

我々は、レイカディア大学の 2 年生の課題学習のテーマとして「旧伊庭家住宅の庭園整備」を行なったが、2014 年 9 月の卒業後もボランティアとして皆で続けたいとの意見がでたため、ボランティアグループ「伊庭愛笑会」として活動を継続することになった。その時、指導教官である樹木医の北村先生が、引続きボランティアで指導を続けてくれることになる幸運にも恵まれた。

私達が、まず手掛けたのは、庭園の樹木の位置と本数と種類の調査である。庭石の位置と個数も調べ、それらを図面にし、それをもとに剪定作業計画を作っていた。樹木の剪定に取り掛かる前には、木に一本一本名札をつけていき、それから樹木の剪定に取り掛かった。



写真 6 ボランティアグループ「伊庭愛笑会」のメンバー

剪定作業は、樹木医の北村先生の指導で、まずどのような形に剪定すればその樹木を活かせるか、周りの樹木や庭石に溶け込むかを考えてイメージする。そして、二～三人一組になり剪定作業を毎月一回の頻度で行っていった。メンバーに女性が2名いるお陰で、休憩時間など色々な飲み物やお菓子類などを準備してくれるため楽しさも倍増した。

2013年10月には、オレガノ主催で観月会が開かれ、我々伊庭愛笑会が準備した庭園の照明用としてLEDで作った行灯を10台設置したところ、点灯の瞬間、会場からは感激の声が聞かれ大変嬉しかった。また、近江八幡では、ヴォーリズのために2014年10月に没後50年記念企画展を一ヶ月間開催し、市内にあるヴォーリズの建物の見学会や講演会や音楽会が開催され、「いのち、平和、そしてヴォーリズ精神」と題して、姜尚中（カン・サンジュン）氏などが講演された。私達伊庭愛笑会のメンバーも、その間旧伊庭家住宅の当番を交代で引き受けた。

3) 「伊庭愛笑会」とその他のボランティア活動

伊庭愛笑会メンバーの活動として他には、伊庭貞剛の足跡を辿り2016年4月に四国の別子銅山跡を皆で訪問したり、伊勢参りと称して一泊して伊勢の研修センターの庭園を剪定し、翌朝伊勢神宮のお参り、帰り道は観光を楽しんだこともある。

レイカディア大学の卒業生は、卒業後も毎年色々な行事をしている。35期卒業生では、毎年八起き会、セブンファーマーズと伊庭愛笑会がそれぞれの特徴を生かした同窓会を開催したり、7月に開催されるレイカディア大学の大学祭には、卒業生として色々な作品を展示したりしている。

また、毎年7月開催の大学祭の見学を兼ねて、35期園芸学科の卒業生全員でコンパをしている。忘年会や研修旅行もするため、35期園芸学科だけでも年6回、毎月の伊庭愛笑会の活動と新年会とイベントの集まりを加えれば年20回ほどの集まりがある。

その他、野外学習など在校生の授業の際に先生をサポートしたり、大学祭の準備や活動をサポートしたりするサポート隊という組織があり、在学中に文化委員長をしていたこともあって、卒業後も大学祭のサポート隊に所属して在校生の支援に当たっている。また、伊庭愛笑会立ち上げ時に参考にさせてもらった近江八幡在住者の園芸学科の先輩が、奥村邸の活動（築後100年の荒れた古民家の庭園整備や建物の修復など）を行っているため、参加させてもらい、庭園管理の仕方や樹木の剪定の仕方を学んだり、色々なボランティア活動のやり方も学ばせてもらっている。



写真7 旧伊庭家住宅 庭園



写真8 奥村邸の活動で整備した庭園

この奥村邸のメンバーは、近江八幡市内の幼稚園や小学校の校庭の樹木の剪定作業もしているので、私も積極的に参加している。毎年3月のひな祭りにはおひな様を飾ったり、5月には近江商人町家「奥村家住宅」の特別公開として竹灯籠を120本ならべた展示会、10月にも「八幡堀まつり」でも竹灯籠の展示会を開いたりしている。



写真9 校庭の樹木剪定作業



写真10 「奥村家住宅」の竹灯籠展示会

また、近江八幡には、退職後の男性の居場所づくり・仲間づくりを目的に開催された講座の受講生たちから始まった「おやじ連」という組織がある。「おやじ連」は、びわ湖の湖畔清掃や八幡山の山道整備、八幡山山廬の竹林整備などのボランティアを行っており、それにも参加して活動を行っている。

このように、趣味を楽しむボランティア活動で地域に貢献し、人との繋がりを大切に人生を楽しんでいる。

執筆して頂きました二見氏の概略の経歴についてご紹介します。

1966年	4月	株式会社名村造船所入社 造機部機関艀装課配属
1978年	3月	伊万里工場総務部営業課アフターサービス係に配転
1980年	2月	京都セラミック株式会社（現：京セラ株式会社）入社
2009年	3月	京セラ株式会社退職